

※B4判で作成しています。

# 町人の文化と新しい学問 ～江戸時代の文化と学問～ ①

## 学習活動1

新しい単元に入ることを伝え、今日の学習のめあてを確認します。

🕒 今日の学習のめあて

江戸時代の文化や学問について、学習問題をつくろう。

🕒 室町時代の文化・学問をふり返ろう。

	人物	したこと	特ちょう
文化	雪舟	墨絵	<b>学習活動2</b> 江戸時代の文化や学問と比較させるために、室町時代の文化や学問について、人物と業績(したこと)、特徴を確認しておきます。 《取り上げたい特徴》 ・武士や貴族が主体である。 ・後に庶民に広がった。 ・中国の学問を学んでいる。 ・今でも残っている。 など
	観阿弥 世阿弥	能楽	
		茶の湯 生け花 書院造	
学問		漢文学 しゅしがく 朱子学	

室町時代の文化・学問を一言で表すと……？

## 学習活動3

短い文でまとめて表現させることで、人物や業績だけではなく、特徴に着目させ、児童が江戸時代の文化や学問の特徴を予想しやすくします。

《記述例》室町時代の文化は、武士や貴族が中心となって作られ、各地に広がった。また、今も伝え残されている。学問は中国の学問を学んでいる。 など

名前 ( )

浮世絵の写真

(著作権に配慮し掲載していません。)

伊能忠敬の

日本地図

写真

(著作権に配慮し  
掲載していません。)

🕒 江戸時代の文化・学問はどうなったのだろう。予想してみよう。

	特ちょう
文化	<b>学習活動4【評価】 関心・意欲・態度</b> ① 墨絵と浮世絵の写真と比較させ、色使いや人物など描かれているもの違いを見付けさせます。また、能楽と歌舞伎の映像を比較させることも考えられます。 ② 見付けさせた違いをもとに、室町時代の文化・学問で取り上げた「人物」や「業績」、「特徴」を視点にして自由にどんな変化があったのかを予想させます。 ③ 予想を発表させる際に、児童の予想を称賛しながら「どうしてそう思ったの?」「本当にそうかな?」「それだけだろうか?」「(予想が分かれたら)どっちだろう?」などと教師が問い返し、児童の疑問につなげていくことで、学習問題を児童と共につくります。

🕒 これから学習していく問題をつくろう。

単元の目標を  
忘れずに!

## 学習活動5【評価】 思考・判断・表現

児童の疑問から学習問題を記述させ、それをもとに学習問題Iをつくります。

《学習問題Iの例》江戸時代には、どんな文化や学問が生まれ、誰が活躍したのだろう。

これから、何を調べていこうかな?

## 学習活動6

「調べる」過程に向けて、教科書に取り上げてある人物を確認しながら、調べる視点「誰が(人物)」「何をした(したこと・業績)」「どんな特徴があるか(特徴)」を決め、学習問題の解決に向けて学習計画を児童と共に立てていきます。

※B4判で作成しています。

## 町人の文化と新しい学問 ～江戸時代の文化と学問～ ②

名前 ( )

㊦ 今日の学習のめあて

**学習活動1**

学習問題Iの解決するための学習計画を確認した上で、今日の学習のめあてを確認します。

江戸時代の文化を調べよう。

近松門左衛門や歌川広重の肖像画や  
歌舞伎や浮世絵の写真など

(著作権に配慮し掲載していません。)

㊧ 近松門左衛門について調べよう。

㊧ 歌川広重について調べよう。

業績 (したこと)

業績 (したこと)

**学習活動2【評価】資料活用の技能**

江戸時代の文化について近松門左衛門と歌川広重を取り上げ、調べる視点「業績 (したこと)」「特徴」を確認し、視点に沿って教科書と資料集を使って調べさせます。  
《予想される記述》

特ちょう

人物	近松門左衛門	歌川広重
視点		
業績 (したこと)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「歌舞伎」というお芝居や「人形浄瑠璃」という曲に合わせて人形をあやつる人形劇をつくった。</li> <li>・武士の身分を捨てて芝居の世界に入った。</li> <li>・約150編の脚本を書いた。</li> <li>・町人の生き生きとしたすがたや義理人情を描いた。</li> <li>・歴史上の物語や実際に起きた事件を題材にした。</li> <li>・作品は「曾根崎心中」「冥途の飛脚」「国性爺合戦」「心中天網島」 など</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「浮世絵」という色ごとに刷る版画の下絵をかく絵師になる。</li> <li>・江戸の武士の家に生まれたが、子供のころから絵の勉強をして、人気の浮世絵師になった。</li> <li>・名所の風景を描いた。</li> <li>・作品は「東海道五十三次」(東海道の名所の風景を描いた浮世絵) など</li> </ul>
特徴	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人気の歌舞伎は町や村でも演じられた。</li> <li>・現在でも公演されている。(無形文化遺産)</li> <li>・現在では海外でも公演されている。 など</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「浮世絵」は、大量に印刷できるので値段が安くなった。</li> <li>・「東海道五十三次」は、江戸のおみやげ品となり、多くの町人に渡る。</li> <li>・有名な画家(ゴッホ)がまねするなど、海外にも影響を与えた。 など</li> </ul>

板書では、上記のように表に整理することで、共通点について考えさせることで、まとめるときのキーワードである「町人の文化」になったことに気付かせます。

㊦ 今日の学習を一言でまとめよう。

学習問題Iに立ち戻り、解決できたか、あと何を調べればよいかを確認することを忘れずに!

**学習活動3【評価】知識・理解**

キーワードになった「町人」を使って、江戸時代の文化を短い文で表現させます。調べたことから「町人」が文化の担い手になったことが理解できたかで評価します。

《記述例》江戸時代の文化は、歌舞伎や人形浄瑠璃の主役が町人になっていたり、浮世絵が町人でも安く手に入ったりしたので、町人が楽しめるものだった。歌舞伎は今でも伝えられていて、鎌倉時代の能と同じで無形文化遺産になっている。町人が中心になる文化になった。多くの人や世界の文化に影響を与えた文化。 など

※B4判で作成しています。

## 町人の文化と新しい学問 ～江戸時代の文化と学問～ ③

🕒 今日の学習のめあて

**学習活動1**

学習問題Iの解決するための学習計画を確認した上で、今日の学習のめあてを確認します。

江戸時代に生まれた学問（蘭学）を調べよう。

名前 ( )

伊能忠敬や杉田玄白の肖像画や  
日本地図や解体新書の写真など  
(著作権に配慮し掲載していません。)

🕒 伊能忠敬について調べよう。

🕒 杉田玄白について調べよう。

業績 (したこと)

業績 (したこと)

**学習活動2【評価】資料活用の技能**

蘭学について伊能忠敬と杉田玄白を取り上げ、調べる視点「業績 (したこと)」「特徴」を確認し、視点に沿って教科書と資料集を使って調べさせます。

《予想される記述》

人物	伊能忠敬	杉田玄白
視点		
業績 (したこと)	<ul style="list-style-type: none"> <li>50才から、蘭学（西洋の学問）の天文学（星の位置や動きから正確な位置を知る技術）や測量術（土地を正確に測る技術）などを学んだ。</li> <li>測量で使う道具を使って、17年をかけて日本全国を測量した。</li> <li>約4万kmを測量し、弟子が仕事を引き継いで日本地図を作り上げた。</li> <li>江戸から北海道までは、自分のお金で測量した。 など</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>医者</li> <li>蘭学（西洋の学問）の中の医学を学んだ。</li> <li>オランダの医学書に書いてあった人体解剖図が正確だったことに感動した。</li> <li>オランダ語の医学書「ターヘルアナトミア」を4年間かけて11回も書き直しながら、日本語に訳し、「解体新書」という本にした。 など</li> </ul>
特徴	<ul style="list-style-type: none"> <li>とても正確な地図が出来上がった。（今の地図とほとんど同じ）</li> <li>蘭学の測量の技術は、江戸幕府をおどろかせた。</li> <li>地図は、長い間使い続けられた。 など</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「解体新書」が出版されたため、オランダ語の入門書や辞書がつくられるようになった。</li> <li>医者を中心にして、多くの人に蘭学の知識が広まっていった。 など</li> </ul>

板書では、上記のように表に整理することで、共通点について考えさせ、まとめるときのキーワードである「西洋（ヨーロッパ）の学問」、「新しい知識や技術」、から日本の発展（学んだことを役立てようとする人々が現れた、正確な〇〇が分かったなど）に気付かせます。

🕒 今日の学習を一言でまとめよう。

学習問題Iに立ち戻り、解決できたか、あと何を調べればよいかを確認することを忘れずに！

**学習活動3【評価】知識・理解**

「西洋の学問」「正確な」などを使って、蘭学を短い文で表現させます。蘭学が広まったことから日本の社会が発展したことが理解できたかで評価します。

《記述例》江戸時代に西洋の学問である蘭学が広まった。蘭学は、土地を正確に測る技術や正確な人体の解剖図など新しい知識や技術を学ぶ学問で、蘭学を学んだ伊能忠敬や杉田玄白らの活躍により日本の正確な地図がつくられたり、人体の内部が分かたりしてとても日本が発展した。 など

※B4判で作成しています。

# 町人の文化と新しい学問 ～江戸時代の文化と学問～ ④

**学習活動1**  
学習問題Iの解決するための学習計画を確認した上で、今日の学習のめあてを確認します。

🎯 今日の学習のめあて

江戸時代に生まれた学問（国学）を調べよう。

本居宣長の肖像画や古事記伝の写真など  
(著作権に配慮し掲載していません。)

🔍 本居宣長について調べよう。

**業績（したこと）**

**学習活動2【評価】資料活用の技能**  
国学について本居宣長を取り上げ、調べる視点「業績（したこと）」「特徴」に沿って教科書と資料集を使って調べさせます。

《予想される記述》

人物	本居宣長
視点	
業績（したこと）	<ul style="list-style-type: none"> <li>古くからの日本人の考え方を学ぶ国学の研究をした。</li> <li>「古事記」の研究に35年をかけて、「古事記伝」という本を完成させた。</li> <li>政治を批判した（幕府に意見書を出した）。 など</li> </ul>
特徴	<ul style="list-style-type: none"> <li>天皇を中心とする政治にもどすべきという考えに発展する。</li> <li>国学が人々の間に広まるにつれて、江戸幕府の政治を批判する人たちが現れ、江戸幕府の政治に大きな影響を与えた。 など</li> </ul>

板書では、上記のように表に整理します。そこで、「江戸幕府は武士が政治を行っていたのに、武士ではない町の人々が、なぜ批判しはじめたのかな？」と問い掛けることで、「町の人々の力が強くなってきたから」や「我慢できない何かがあったのでは」など予想させます。その上で**学習活動3**に進みます。

名前（

**学習活動3【評価】資料活用の技能**  
下の資料を読み取らせ、当時の社会状況を段階的に調べさせます。

🔍 当時の世の中は、どのような状況だったのだろう。

資料を添付します。

百姓一揆と打ちこわしの発生件数  
(著作権に配慮し掲載していません。)

**資料から分かること**  
① 資料から分かることを記述させます。  
《予想される記述》  
・「百姓一揆」が「打ちこわし」より多い。  
・ききんがおこるとどちらも急に増える。  
・年が進むと「百姓一揆」が少しずつ増えている。 など

**資料から考えられること**  
② 分かったことを発表させ、称賛しながら、思考を促す発問をし、考えを記述させます。  
《発問》「なぜ、百姓も反抗するのかな」「我慢できなくなったのかな」  
《予想される考え》  
・学問を学んだ人が反抗しようとしたのではないかな。勉強した人は百姓や町の人のために働いたから、みんながついていくと思う。など  
このようにして、大塩平八郎の乱へ児童の思考の流れをつなぎます。

🔍 大塩平八郎の乱から分かることを考えよう。

大塩平八郎  
の肖像画  
(著作権に配慮し掲載していません。)

**大塩平八郎とは、どんな人物なのだろう**  
**学習活動4** 大塩平八郎の乱（反乱）について調べさせます。  
《予想される記述例》  
・学問を教える塾を始めた人 ・苦しむ人を助けようとした人  
・元町奉行所の役人なのに、役人を批判し、反乱を起こした人

**大塩平八郎の乱から、分かることを考えよう**  
《予想される記述例》  
・幕府の役人（武士）でも、幕府に不満をもっていた。  
・武士も生活が苦しかった。  
・幕府は、武士や町人などを治めることができなくなっていた。

🎯 今日の学習を一言でまとめよう。

**学習活動5【評価】知識・理解**  
「天皇」「幕府への不満（政治を批判）」などを使って、国学を短い文で表現させます。  
《記述例》江戸時代に、天皇を中心とする政治を研究する国学が広まった。本居宣長は、35年をかけて国学の研究を進め、政治を行う人の心構えを説いた。国学は人々の間に広がり、幕府への不満と重なり、新しい時代を望む人々の動きに影響を与えた。 など

学習問題Iに立ち戻り、解決できたか確認すること

※B4判で作成しています。

# 町人の文化と新しい学問 ～江戸時代の文化と学問～ ⑤

名前（ ）

## ㊦ 今日の学習のめあて

### 学習活動1

学習問題Ⅰの解決するための学習計画を確認した上で、今日の学習のめあてを確認します。

江戸時代に生まれた文化や学問を振り返ろう。（学習問題Ⅰをまとめよう。）

授業で取り上げた5人の肖像画など

（著作権に配慮し掲載していません。）

## ㊦ 学習問題の答えを考えよう。

これまでの学習を振り返り、児童に発表させながら、5人の人物の「業績（したこと）」「特徴」の視点に沿って、板書に以下の表のようにまとめていきます。

分野	誰が	業績（したこと）	特徴
文化	近松門左衛門	歌舞伎、人形浄瑠璃	町人が主役で楽しめる文化
	歌川広重	浮世絵	
蘭学	伊能忠敬	正確な日本地図	ヨーロッパの新しい知識を学ぶ学問
	杉田玄白	正確な人体解剖図	
国学	本居宣長	古事記伝	日本人の考え方を学ぶ学問

### 学習活動2 【評価】思考・判断・表現

学習問題Ⅰ「江戸時代には、どんな文化や学問が生まれ、誰が活躍したのだろうか。」について、江戸時代の文化や学問の特徴をまとめて記述させます。

《記述例》江戸時代の文化は、近松門左衛門などが活躍し、町人が楽しめる、町人が主役となりました。また、江戸時代には、西洋の学問を学ぶ蘭学と古くからの日本人の考え方を学ぶ国学が生まれ、伊能忠敬や本居宣長などの活躍により新しい知識や技術を使って日本や人々の役に立った。しかし、江戸幕府の政治を批判する動きも見られた。 など

## ㊦ 5人のうちで、一番すごいと思うのはだれか。

### 学習活動3①

学習活動2での記述を発表させ称賛します。その後、5人の人物の誰もがすごい業績であったことを確認した上で、「この5人の中で誰が一番すごいと思ったか」と問い掛けることで、それぞれの業績を比較させ、自分の意思決定を促します。

自分が選んだ人物とその理由を記述させます。

《記述例》（伊能忠敬）やったことが日本全国に及んでいて、今の日本地図と変わらないぐらいの正確な地図をつくったところが一番すごいと思ったからです。 など

## ㊦ 文化・蘭学・国学のうちで、一番すごいと思うのは？

### 学習活動3② 【評価】思考・判断・表現

学習活動3①での記述を発表させる中で、同じ理由で違う人物を選んでいる児童や違う理由で同じ人物を選んでいる児童などの記述を取り上げたり、教師が投げ掛けたりすることで、児童の思考を揺さ振ります。そうすることで、児童の多様な考えを引き出し、もっと話してみたい、深く考えてみたいという児童の意欲を喚起し、考えやすくするために「文化」「蘭学」「国学」の分野の3つに絞って、すごいと思う分野を選ばせ、その理由を記述させます。

《記述例》（国学）研究期間が本居宣長だと35年で最も長く、藩主に意見書を出す勇氣ある行動をするまでになったし、政治をよくしようとする考えになっていったから。 など

## ㊦ 新しい学習問題（学習問題Ⅱ）

### 学習活動3③ 学習活動4

学習活動3②での記述の中から、意図的に違う分野と選んだ理由を児童に発表させ称賛します。その際、「どちらも分かるけれど、どちらに納得するかな？」や「比べている理由が違うからだね。同じ視点で比べてみるとどうなる？」などを問い掛けながら、それぞれを比較した理由を視点として取り上げ、討論型の学習へ意欲を高め、学習活動4の学習問題Ⅱ「江戸時代を代表する文化や学問を考えよう」をつくります。

※児童の言葉でつくりますので、学習問題Ⅱは同意であれば違う文になることも考えられます。児童と共につくるのが大切です。

《学習問題Ⅱの例》「江戸時代の文化や学問の中で一番すごい分野を考えよう」「江戸時代のNo.1（一番お勧めする）の分野を決めよう。」 など

### 《考えられる視点》

比較させる視点ですから、児童の実態に合わせて2つ～3つにすることを勧めます。

- ・影響力の大きさ（誰の役に立ったのか）
- ・努力や苦勞
- ・影響力の広さ（現在への影響）

※B4判で作成しています。

# 町人の文化と新しい学問 ～江戸時代の文化と学問～ ⑥

名前 ( )

## ㊦ 今日の学習のめあて

**学習活動1**  
学習問題Ⅱについて討論会をすることを確認した上で、今日の学習のめあてを確認します。

前時の**学習活動4**で児童と共につくった**学習問題Ⅱ**を今日の学習のめあてにします。  
**江戸時代の代表する文化や学問を考えよう。(学習問題Ⅱ)**

**学習活動2**へ進む前に  
自分の考えに固執したり、感情的な討論になったりしないように、考えを変えてよいことを伝えておきます。また、**学習活動3**に向けて、変わったときの理由、変わらなかったときの理由が言えるようになることが大切であることを児童と共有しておきます。

## ㊧ 視点ごとに5点満点で評価し、討論会を行おう。友達の良いと思った意見をメモしよう。

分野	文化	蘭学	国学
視点			
影響の広さ (その後に与えた影響)	<b>学習活動2① 【評価】 関心・意欲・態度</b> 学習問題Ⅱについて「文化」「蘭学」「国学」の3つの分野について前時の <b>学習活動3③</b> で取り上げた視点を基に比較させ、採点式で評価させることで、自他の考えを比較して考えやすくします。このワークシートでは5点満点ですが、3点満点や10点満点なども考えられます。また、採点の横に短く理由を書かせる方法も考えられます。児童の実態に応じて決めてください。自分の考えを話しやすくし、友達の考えと比べやすくすることを大切にします。		
影響の大きさ (誰に影響を与えたか)			
努力や苦勞	<b>学習活動2②</b> 学習活動2①で評価した点数を基にして、討論会をします。目的は、習得した知識を考える根拠として活用させ、自分の考えを深めさせることです。自分の考えを伝え合うだけに終わらないように、友達の理由をよく聞き、なるほどと思ったことを「なるほどメモ」に記述させたり、納得いかない理由を問い返させたりしながら行います。討論会の形態は、以下の3つの形態が考えられます。どの形態においても、最後は、出た意見を板書にまとめ、全児童と情報を共有させます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ペア(1対1)で討論する…「どちらの考え(理由)がみんなを納得させられるかな」などの目的を確認して行います。</li> <li>・グループ(4、5人)で討論する…同じ分野を選択した友達とペアを組ませ、違う分野を選択したペアと目的を示して行います。</li> <li>・学級全体で討論する…教師が進行役になり、「なぜ、そう思うの?」などと根拠を引き出させる問い返しや「Aさんの考えについて、どう思う?」などと違う考えやつなぐ考えを引き出す問い掛けをすることで、児童自身の考えが深まることを意識して問い返しながら行います。</li> </ul> 1つの形態で行うだけではなく、時間を区切っていくつかの形態を組み合わせる方法もあります。このように、討論会は「目的」「時間」「形態」を示して行います。		
なるほどメモ			

## ㊨ 討論会を終えた自分が一番すごいと思った分野とその理由を書きましょう。

**学習活動3 【評価】 思考・判断・表現**  
 討論会を踏まえて、自分の考えを見直させ、以下の点に留意して学習問題Ⅱについて自分の考えを記述させます。

- ・理由が事実の羅列にならないこと…比べてどう考えたかが言葉になるように、「～よりも～の方が～だから」「○○の視点で考えると」など国語科の学習を踏まえた、文形を示して論述させる方法が考えられます。「事実(○○が□□したこと)よりも事実(○○が□□したこと)がすごいから」と記述している児童には、「どんなところがすごいのかな?」や「なぜ、すごいといえるのかな?」と問い掛け自分の言葉で理由を付けるようにさせましょう。(表現力の向上へ)